

学校法人京都成安学園

令和元年度（平成31年度）事業計画

I 建学の精神・ミッション、学園の目指すべき将来像

学校法人京都成安学園は、大正9年、創設者である瀬尾チカが成安裁縫学校設立を京都府知事から認可されたときに始まります。「本校ハ時代ノ進歩ニ伴ヒ最モ新シキ和洋裁縫及ビ実用的手芸ノ一般ヲ教授シ併セテ自活学習ノ便ヲ与ヘ兼ネテ婦徳涵養ニ資スルヲ以テ目的トス」と当時の校則に謳われているように、婦人が自活できる能力を身につけさせることが学校設立の目的であり、婦人の社会的・経済的地位を向上させようとする先進的な取り組みは、瀬尾チカの体験に裏付けられた確固たる信念に基づくものでありました。

京都成安学園の建学の精神は、成安裁縫学校を創設するに際して校名に使用し、以来今日までに設置した幼稚園から大学まで全ての学校の名前に使用した「成安」という言葉です。

1 京都成安学園 建学の精神 「成安」

京都成安学園 建学の精神、その由来は「成安」の名にこそある。

「成」とは、成し遂げること。「安」とは、安寧であること。つまり「成安」とは人の和を大切に、一人ひとりが自己の使命を追求し、全うし続けることを通じて、心安らぐ平和な社会をつくることに貢献するという意味である。

2 京都成安学園 校訓－学祖のことば 「誠と熱」

「誠と熱」とは、学祖・瀬尾チカが強い信念と行動力で人生を切り拓いた自らへの証であると同時に、真摯さを失わず、弱者への想いを抱き続けるという誓いの言葉である。

さらにこの言葉は、成安に集う者たちの心をひとつにする学園の訓でありながら、それぞれの人生の長きを、正しく強く生きぬく力を授けてくれる。そしてその力こそが、学園のみならず広く社会を豊かにするのだと。

3 京都成安学園の目指す将来像

京都成安学園は、建学の精神や学園設立の精神から導かれる「実学教育」「ものづくりの教育」を中心とした学校運営を行い、教育・研究・社会貢献のいずれの分野においてもトップレベルの質を維持し、名門と呼ばれるに相応しい学園を目指します。

Ⅱ 学校法人京都成安学園

【1】事業計画

1 経営基盤の強化

(1) 事務職員の能力開発【継続課題】

大学設置基準の改正を受けて、大学の教育研究活動・管理運営活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、これを担う事務職員・教育職員の能力及び資質の向上を目的とする包括的な職員研修制度体系の構築を図る。なお、幼稚園部門の職員も含めた学園全体の研修体制を確立する。

(2) 財務基盤の確立【継続課題】

収支の均衡を図り、基本金組入前当年度収支差額における収入超過と支払資金の増減額におけるプラスの状態を維持することのできる財務の実現に向けた計画を立案する。

(3) 収益事業の展開【新規課題】

収入源泉の多角化・多様化に向けた取り組みである収益事業のうち、「成安アカデミー（仮称）」の開設に向けた準備作業を開始する。

(4) 内部監査機能の強化と三様監査体制の確立【継続課題】

内部監査をより実質化するため、また、内部監査機能をより強化・充実するため、監査体制の見直しを含む制度と体制の抜本的な改革を継続して行う。あわせて、内部監査部門と会計監査人（公認会計士）及び監事の連携を図り、三様監査体制の確立に向けた取り組みを継続する。

2 管理・運営

(1) 業務執行体制の改革【継続課題】

業務改善、業務引継ぎの効率化、業務や学生サービスの質の均一化などを目的として業務を可視化し、業務のマニュアル化の検討を開始する。

(2) 公共性を高める自律的なガバナンスの確保【新規課題】

日本私立大学協会が取りまとめている「日本私立大学協会憲章 私立大学版ガバナンスコード（中間報告）」や改正が予定されている私立学校法の内容等に基づいて、学校法人のガバナンスの確保に係る取り組みを進める。

(3) コンプライアンスの徹底を促すための取り組みの強化【新規課題】

役員ならびに職員に対してコンプライアンスの徹底を求めるとともに、それを促進するための取り組みを強化する。

(4) 働き方改革関連法施行への対応【新規課題】

働き方改革関連法施行に伴う「雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保」に対する対応に関して、

平成 32 年度からの法令の施行に向けた諸制度の改革を行うとともに、平成 31 年度から実施する「長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現等」に関する実施内容について検証し、必要に応じて改善を図る。

3 学園創立 100 周年記念事業

(1) 学園創立 100 周年記念事業の計画の確定【継続課題】

記念式典挙行年度である西暦 2020 年度を中心に展開する学園創立 100 周年記念事業に関して、記念事業の計画を確定する。

(2) 学園創立 100 周年記念事業募金委員会の設置と募金事業の開始【新規課題】

学園創立 100 周年記念事業に係る募金を募集するために、学園創立 100 周年記念事業募金委員会を設置し、平成 32 年 2 月から募金事業を開始する。

(3) 学園創立 100 周年記念事業の実施に係る事業資金調達への対応【新規課題】

学園創立 100 周年記念事業の実施に係る事業費資金を調達するため、日本私立学校振興・共済事業団ならびに市中金融機関との協議を開始するとともに、必要な準備を開始する。

Ⅱ 成安造形大学

【1】基本理念（教育理念）等

1 成安造形大学の基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」

私たち成安造形大学は、芸術分野における真摯な教育と研究を通して広く社会に貢献する。独自の実践的学士課程教育によって、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材を輩出する。そして、誇るべき永い伝統を全員が胸に抱き、新しき名門を目指す。

私たちは今、自らの文化や精神性を改めて深く認識し、それらをしっかり引き継ぐことを真剣に考えねばならない時代にある。芸術の果たす役割もますます大きくなっていくに違いない。その中で私たちは、芸術大学の今日的意義を模索し、あるべき姿を追い求める。そして、新たな芸術観の確立に向けて研鑽を重ね、公正なまなざしで自らの社会性を高め、創造性豊かな提案を続けていく。

私たちは、学びのクオリティーにこだわる。総合性と専門性を両立しうる高度なカリキュラムを準備するとともに、和気藹々と心地よく学べるゆきとどいた教育環境を整える。学生一人ひとりの個性としっかり向き合い、持てる力を大きく引き出す少人数教育を行う。

私たちは、造形にもとづく叡知を開く。ものをかたちづくるその過程において、多くを学び、心が生き生きする出会いの瞬間を見いだす。自然や素材と交わる経験を通して、学生たちが感性を大きく伸ばせる実践教育を行う。

私たちは、決して揺るがない。自らの芸術を実現し、高く成し遂げるための信念において揺るがない。なぜなら、本学には校訓「誠と熱」が脈々と息づいているからである。私たちは、私たちの起源であるその盤石の精神を継承し、さらに発展させ、学生たちに伝えていく。

私たちは、この場所から始めていく。この場所から生み出していく。学生たちとともに、多くの人々との交流と連携を進め、芸術の力で地域を活性化させる。そして私たちは、美しい湖国唯一の芸術大学であるという自負を携え、その熱き鼓動を世界に向けて響かせる。

2 大学の目的と学部・学科の人材育成目的

大学の目的

成安造形大学は、デザイン及び美術に関する学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の理論、技能及びその応用を教授研究し、人格の完成を図り、国際性に富み、個性豊かな教養の高い人材を育成し、もって文化の創造・発展、産業の発展、国家社会の福祉に寄与することを目的とする。（学則第1条）

学部・学科の人材育成目的

「芸術による社会への貢献」という基本理念（教育理念）の下、「誠と熱」を持ち、公正さと創造性を兼ね備える、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材の育成を目的とする。（学則第2条の2）

3 大学の3つのポリシー

(1) アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

芸術を学びたいという意欲と熱意のある人

学びたい専門分野がある、実践したい制作（研究）テーマがあるなど、芸術をとおして将来の夢をかなえようとする学生。

芸術を学ぶために必要な感性のある人

豊かな感性と自由な発想力を持ち、成安造形大学でさらにそれを高めようとする学生。

成安造形大学の基本理念「芸術による社会への貢献」に共感できる人

専門分野をいかし、社会や地域と連携した実践的な学びの中で、生きるチカラを養い、自分の可能性を磨こうとする学生。

成安造形大学の教育システムを理解し活用できる人

本学独自の教育システムである成安パーソナルプログラム（S P P）をいかしながら、学んでいこうとする学生。

(2) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

成安造形大学 教育目標（学士課程の学習成果に関する指針＝学位授与の方針）

①知識・理解（認知的領域）

- (1) 芸術分野における基本的な知識を体系的に理解できる。
- (2) 芸術分野の知識と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解できる。
- (3) 多文化・異文化を理解し、多様性を尊重できる。

②技能（精神運動的領域）

- (1) 日本語や特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。自分の考えを伝えることができる。
- (2) 情報通信技術を利用して、多様な情報を収集し、的確に把握し、発信することができる。
- (3) 専門分野において基礎的な造形能力を身につけている。
- (4) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。論理的思考力によって、解決のための計画を立案し、実行できる。

③態度・志向性（情動的領域）

- (1) 自らを律して行動できる。指示を待つのではなく、やるべきことに積極的に取り組める。
- (2) 他者と協調して行動できる。他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- (3) 卒業後も自らを律して学習できる。
- (4) 自己の良心と社会の規範に従って、誠意と熱意を持って行動できる。
- (5) 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を理解し、社会に貢献できる。

④創造性（総合的・実践的領域）

- (1) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活かし、研究制作成果を提示できる。
- (2) 専門分野における経験を活かし、自らが立てた課題において創造的提案ができる。

(3) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

- 1 学修の順次性を明確にし、総合的な造形的基礎と高度な専門性を養成する。
- 2 導入教育を充実させて社会人として必要な基礎力と対課題能力を養成し、それぞれが学ぶ専門分野と有機的にむすびついた高度な社会実践力を確立する。

この教育方針の下に芸術学部芸術学科の教育課程は、1年前期・後期を《専門導入課程》、2年前期・後期3年前期・後期を《専門基盤課程》、4年前期・後期を《専門研究課程》に分けます。また、各科目を「学部共通科目」と「専門科目」で編成します。

「学部共通科目」では、「基礎科目群」、「応用科目群」、「教養科目群」、「社会実践科目群」の4つを大きな柱としています。

「基礎科目群」では、4年間の大学生活を自主的かつ円滑に進めるために必要な基礎的学力を身につけるスタートプログラム科目や芸術に対する認識の基盤となる理論の初歩を幅広く学び、広範な造形活動を支える芸術基礎科目、所属する領域に関係なく、基本的な造形力を幅広く身につけるファウンデーション科目で構成されています。

「応用科目群」では、広範な芸術活動の専門性を理論的、実践的に支え、各領域の専門基盤課程、専門研究課程において必要とされる専門的知識・技能を習得するための芸術応用科目を提供します。

「教養科目群」には多様な知識・教養を学ぶことにより、多角的な視野や豊かな知性、柔軟な思考力を身につけ、各学生が幅広い視点から造形活動を捉えることができる資質を獲得するための教養科目、異文化コミュニケーション能力を身につけることにより、グローバルな視点に基づく思考力や創造力を獲得するための外国語科目があります。また、大学コンソーシアム京都や環びわ湖大学連携による単位互換協定を締結した滋賀県、京都府の大学、短大の科目を受講することもできます。

「社会実践科目群」は、社会との関係のなかで自己を確認し、卒業後の自己実現のために寄与する科目群です。地域貢献・プロジェクト科目は、「芸術による社会への貢献」を実現する科目として「芸術力」要請をもとに実践的な知識・技術を活用し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力に優れた社会の即戦力となる人材育成を目的としています。また、キャリアデザイン科目は、キャリア形成を考えるうえで前提となる「自己分析・自己発見」「社会を知る」ということを段階的に学ぶことにより、学生が各々の目標に合わせたキャリアデザインを構築するための科目です。

「専門科目」では、それぞれに「専門導入科目群」、「専門基盤科目群」、「専門研究科目群」の3つを段階で履修します。「専門導入科目群」では専門分野を修めるために必要不可欠な最低限の知識や技能を養うための必要不可欠な実習科目、演習科目を、「専門基盤科目群」では各自の専門領域の基盤となる知識や技術を修得することで、各自の専門性を深く究めてもらうための実習科目と演習科目を、「専門研究科目群」ではゼミ段階的な履修や選択的な履修をもとに、各自の専門領域にかかわる知識や技術を広く修得することを通して、より高度な表現力や思考力を獲得するとともに、各自の専門性を深く究めてもらうための研究科目、卒業制作を設置しています。

【2】事業計画

2019 年度事業計画の策定にあたり

18 歳人口の減少をはじめ、人生 100 年時代、地方創生、グローバリゼーション、超スマート社会、SDGs など、社会環境は目まぐるしく変化しています。その変化に対応し、社会に求められる高等教育機関としての役割を果たすため、2019 年度から 2028 年度までの 10 カ年を期間とする学園の中長期経営計画が策定されました。大学では、これまでの比較的閉鎖的で守られた環境から、第三者評価の受審や情報公開による説明責任など、より一層の透明性が求められる状況に加え、入学者の多様化や国際化、ICT 化、大学間競争の激化など、これまで以上に課題が山積しております。そういった状況から、当然ではありますが、大学の本分である教育・研究の質的向上が益々重要となっており、本学では、その課題を最優先に、以下の中長期の経営戦略目標を設定しました。

【大学中長期経営計画 経営戦略目標】

1. 質保証システムの確立

学修者本位の教育実現の観点で、教学マネジメントを確立し、教育の質的転換と付加価値の向上を推進する。結果を重視し、教育成果を実証的に表現する。

2. 教育・研究の高度化、先鋭化と拡張

より高い創造的能力とより深い社会的視座を育成するための独自の取り組みを推進する。芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進し、教育に反映していく。

3. 「就職に強い芸術大学」の評価確立

就職を希望する学生が、高い確率で就職できるシステムを盤石にし、その社会的評価を確立する。

4. グローバル化、多様化の推進と対応

大学進学 18 歳人口の減少を踏まえて、多様性を受け入れるシステムを構築し、多様なニーズに対応できる体制を整備する。

5. 卒業生との連携強化

卒業生との親密な交流を推進すると共に、相互的利益を図るネットワークを形成する。

6. 地域連携の深化

地方創生への貢献を具体化し、地域における存在感を向上する。全国区の芸大でありながら地域拠点でもあるハイブリッドな役割を果たし、独自のポジションを確立する。

7. 財務体質強化と体制整備

永続的な大学発展のために、財務体質の強化を図りつつ、大学運営の将来を担う組織体制を整備推進する。

また、2020 年度には、学園が創立 100 周年を迎えるため、歴史や伝統を継承している唯一の高等教育機関として、これまでの 100 年間の軌跡を振り返り、旧設置校も含めた卒業生との繋がりを強化し、改めて本学の価値を再認識するとともに、新たな価値を創造することで、学内外に向けて、本学の存在意義をアピールし、ブランド力を向上させる絶好の機会と捉えています。

以上のことを踏まえ、2019 年度の大学の事業計画の策定にあたっては、これまで取り組んできた事業の進捗状況ならびに課題についての評価と検証を行った上で、中長期経営計画における 10 年後の到達目標を達成するための礎となる事業を中心に策定しています。

1 教育活動に関する事業

(1) 学生の受け入れ

(a) 選抜方法

- ①2021 年度高大接続改革に向けた新入試制度を構築する。
- ②入学者数を安定的に確保するために、定員に対し 5 倍の志願者を集める施策を構築する。

(b) 募集目標・募集戦略

- ①入学者数 240 人を安定的に確保するとともに特待生・給付奨学生数を 48 人程度とする。
- ②特待生型・給付奨学生型入試をセールスポイントとし、AO 入試などの専願受験者の増加と、国公立などとの併願受験者の増加を図る。

(c) 広報戦略

- ①紙媒体・ウェブ媒体などを通して、これまでに構築してきた成安のイメージを踏襲しつつ、成安の強みや魅力を受験生等に明確に伝えていく。
- ②特待生型・給付奨学生型入試を切り口に、高校や研究所との連携を強化し、受験生や本学の支持者（高校や研究所の教員等）を増やす。
- ③地域実践領域の募集広報を継続的に強化していく。
- ④リスティング広告などを利用し、イベント集客増加や特待生型・給付奨学生型入試の周知を図る。
- ⑤外国人留学生の獲得強化に向け、ツール作成や日本語学校への働きかけなどの募集広報を強化していく。
- ⑥卒業生活動の紹介を積極的に行う。

(2) 教育内容及び教育課程

- ①ディプロマポリシーと各科目の学習目標との相関を明確にするための方策を検討する。
- ②平成 29 年度から改編したイラストレーション領域、平成 30 年度から改編した総合領域ならびに情報デザイン領域、平成 30 年度より新設した地域実践領域の在学生の状況を検証し、カリキュラム内容やコース数の適正化などを検討する。
- ③新教職課程がスタートするにあたって、円滑な運営の体制整備及び、同課程における質保証体制を検討する。
- ④卒業制作展のあり方を検証し、2021 年度（2022 年開催）以降の開催場所を決定する。
- ⑤学生の課外活動時間の確保や祝日の増加による余裕のない学年暦の設定状況を踏まえ、1 コマの時間数及び授業日数の見直しを検討する。

(3) 教育連携

- ①平成 30 年度に設置した「教育連携推進センター」の業務精査を行い、姉妹校やパートナーシップ校との連携強化と業務の効率化を図る。
- ②姉妹校やパートナーシップ校以外の高等学校との教育連携を検討するとともに、日本語学校等の教育機関との教育連携も模索する。

(4) FD（教授方法等の改善）の取り組み

- ①質保証に向け、重要な要素となる授業評価アンケートの内容を見直し、多面的な授業評価方法を検討する。
- ②社会で求められる汎用的な能力・態度・志向とされるジェネリックスキルについて、理解を深

め、学生指導に生かすための研修会を開催する。

(5) キャリア教育の推進

(a) 対希望者就職率 **90%程度**の維持と認知度向上

- ①教育職員との協働・連携による精度の高い支援を目指す。そのために年1回研修会を実施、「キャリアサポート通信」での情報発信と、「教育職員（ゼミ担当）との情報共有ミーティング（年2回に強化）」開催する。また「キャリアサポート委員会（仮称）」の設置と自己点検・自己評価におけるキャリアサポートに関する目標の明確化を図るための検討をおこなう。
- ②低学年からのキャリアサポートをおこなう。ジェネリックスキルを育成するためのプログラム「PROG」の分析結果の活用および企業に対し「採用に関するアンケート」を継続実施し、学生へのキャリア支援に活用する。また低学年からの実践的キャリア教育・サポートに向けた検討をおこなう。
- ③卒業生との連携によるキャリアサポートをおこなう。卒業生を対象にしたアンケート（現状・満足度など）を実施しキャリアサポートに活用する。また同窓会に対し、人的協力と金銭的協力での両面でのサポート依頼をおこなう。
- ④障がい学生のキャリアサポートの充実に向けた情報収集の強化を図る。
- ⑤外国人留学生の就労に関する法律や情報収集の強化を図る。

(b) インターンシップ制度の拡充と強化

- ①大学で学び得た能力をいかす専門的な能力を活かすインターンシップ制度とモノづくりや働く意義を発見するインターンシップ制度を確立し強化を図る。
- ②現制度の実習期間と単位認定、必修化や対象学年などの見直しを図り、現制度の拡充と強化を検討する。

(c) 京滋地区地場産業との関係強化

京都府、滋賀県の地場産業（モノづくりしている企業を中心に）の情報収集をおこなうため、各種団体、銀行（信用金庫）との関係構築を図り、地場産業を知る。

(6) 学生支援

①高等教育無償化の対応

2020年度から開始となる高等教育無償化における支援措置の対象校の確認申請を行った上で、無償化制度の円滑な導入を図るために、事務処理体制を整備する。

②離学者の対応

授業への出席状況や個別の窓口相談など学内の情報を共有し、兆候のある学生に対しての指導を徹底するとともに、過去の離学者データを分析し、新たな離学予防策を検討する。

③障がいのある学生の支援

千差万別である障がいのある学生への対応について、研修会の実施や情報共有を図り、本学における障がい学生支援のあり方を検討する。

④外国人留学生の支援

新たに設置する留学生支援センターで、他大学の受入・支援状況を調査研究し、外部関係機関との連絡体制を強化し、本学における外国人留学生支援のあり方を検討する。

⑤海外の協定校へ留学する学生の支援

在学生に対し、留学先となる協定校の情報や留学に関する情報を積極的に発信する。また、協定校へ留学する学生に対し、TOEFL基礎講座の実施や奨学金など留学に有用な情報の提供など、支援の充実を図る。

⑥海外の協定校からの留学生の支援

交換留学生サポーターの育成を強化し、その支援体制の充実を図る。

(7) 教育環境の整備

①保健室について、これまでの利用状況を検証の上、今後の保健室機能の在り方（教職員の健康管理などを含め）を検討し、平成 32 年度から事務室内へ移設する。

②クリエイティブキャンパス計画に基づき、造形・鉄工・版画の各ラボ及びファブリケーション・コモンズの今後の方向性と施設の在り方について、検討する。

③クリエイティブキャンパス計画に基づき、中期のバリアフリー化計画を立案する。

2 研究活動・社会連携活動に関する事業

(1) 附属芸術文化研究所における活動

①研究紀要を発刊（電子版）する。

②附属芸術文化研究所を改組し、社会連携のあり方を高度化・先鋭化・拡張させ、新たな本学の研究活動の拠点となる未来社会デザイン共創機構（仮称）の 2021 年度設立に向けた検討を行う。

③コンプライアンス研修のさらなる充実を図る。

(2) 附属近江学研究所における活動

①これまでの 10 年間の研究活動を基盤として、今後 10 年間の研究テーマ設定を検討する。

②会員制の「近江学フォーラム」を運営する。会員を対象とした講座を 5 回、現地研修 1 回を開催する。

③近江学研究を地域社会に還元のため、講座を 5 回、写生会を 2 回、風景画の公募展を開催する。そのうち、4 月に学外で特別公開講座を開催し、フォーラム会員数の増加を目指す。

(3) 地域連携推進センターにおける活動

①実施した事業について、よりわかりやすい成果報告となるよう検討をする。

②「セイアン近江楽座」において、学生の主体的な地域とのかかわりを支援する。

(4) 【キャンパスが美術館】における活動

①「秋の芸術月間 2019 セイアンアーツアテンション 12」を大学同窓会との連携事業として開催する。

②2020 年 1 月、「学園創立 100 周年記念事業関連企画 第 52 回窠鴻会」の開催に協力する。

③2020 年度に開催する、「学園創立 100 周年記念事業 芸術月間 2020 セイアンアーツアテンション」の企画を推進する。

(5) 教員免許状更新講習の推進

教職課程を有する大学として、7 月末日から 4 日間、7 講座でのべ 170 人の受講者を見込む。

(6) COC プラス事業の継続

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC プラス事業）」は、5 か年計画の最終年である。2020 年度以降も視野において、地元志向教育を継続・深化させる。また、地元就職もキャリアの選択肢として地道に提示していく。

(7) SDGs（持続可能な開発目標）の推進

本学の特性を活かした教育研究活動により、学生や教職員の SDGs に対する理解を深める。

3 内部質保証

(1) 人材育成目的と 3 つのポリシーの再構築

人材育成目的を再定義し、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの一貫性を検証する。

(2) 質保証システムの構築

質保証の実現に向け、教学におけるマネジメントシステムを確立する。

(3) ルーブリックの作成

特定の科目でルーブリックを作成し、厳格な成績評価を推進する。

(4) 学修成果の可視化

成績評価やアンケート集計などに加え、アセスメントテストの実施を検討し、学習成果の可視化を推進する。

(5) IR 活動の推進

教育情報を集約して分析し、その結果を各領域やセンター、部署へフィードバックし、改善方策を検討する。

(6) 教育職員の自己点検・評価制度の見直し

教育研究活動の改善や向上につながるように、評価項目やフィードバック方法の見直し、評価者のルーブリックの作成など実効性のある制度に見直す。

(7) 情報システムの導入

情報の蓄積及び共有化、教育職員の支援、IR 活動の推進並びに教育の質向上へ資する情報システムの導入を検討する。

(8) 外部評価

より厳正な点検・評価を促進するために、大学機関別認証評価に加え、学外の有識者や企業関係者などによる第三者評価の導入を検討する。

4 管理・運営

(1) 事務機構改革

平成 29 年度から平成 31 年度を実施期間として進めている組織改編及び事務職員の定数化に伴い、各部署における現状の業務の検証結果を統合し、今後の人材育成方針を検討する。

(2) 事務業務の効率化

重複業務や不要な業務などを抽出した上で、業務の整理・統合を、また、定型業務については、

可視化・マニュアル化・数値化を継続する。

5 学園創立 100 周年記念事業

(1) クリエイティブキャンパス計画

芸術教育にふさわしい創造的な刺激に満ちあふれ、開放的で楽しく居心地の良いキャンパス環境を整備する基本計画を立案し、着工する。また、クリエイティブキャンパスにふさわしい作品やアイデアを募集する「クリエイティブキャンパス計画コンペティション」を開催する。

(2) 記念ツールの制作

記念事業のロゴマーク、総合パンフレット、記念品を制作し、特設ウェブサイトを立ち上げる。

(3) 学園歴史資料室の整備

収蔵されている学園の歴史資料を再確認し、学園歴史資料室の再整備を推進する。

(4) 大学同窓会との連携強化

学園創立 100 周年に向け、卒業生に対する積極的な情報発信やコミュニティーの活性化、在学生との交流機会の提供、卒業生名簿の共同管理など、大学同窓会との連携強化を図る。

(5) 記念行事

2020 年度に予定している記念行事（記念式典・講演会・レセプション、ホームカミングデイ、キャンパスが美術館におけるセイアンアーツアテンションなど）を企画する。

Ⅲ 成安幼稚園

【1】基本理念・教育の目的・教育目標

1 成安幼稚園の基本理念

豊かな創造力と健やかな体、たくましい自立心を育てる。

本園は、「子どもの生活は遊びながら…」が保育の基本であると考えています。偏った英才教育では、心は見失われてしまいます。

本園は、長い伝統を誇る京都成安学園の建学の精神「成安」、校訓「誠と熱」の信念を柱とし、遊びを中心とした総合的保育で、創造力の豊かな心と健やかな体を育てます。

本園は、現代社会に失われつつあるものを育てることが大切であると考えています。

2 成安幼稚園の教育の目的

- (1) 健康・安全で幸福な生活のために必要な基本的生活習慣を養うとともに、身体諸機能の調和と発達を図る。
- (2) 集団生活を経験し、協調性、自立及び自律の精神の芽生えを養う。
- (3) 社会の様々なものごとに対し、正しい理解と態度の芽生えを養う。
- (4) 人との関わりの中で、意思伝達能力を養い、信頼関係を築く。
- (5) 経験をとおして感性を育て、創造力を豊かにし表現する力を養う。

3 成安幼稚園の教育目標

一人ひとりの子どもを大切にして、基本理念に基づいた保育を行い、心豊かな子どもに育てます。

【2】事業計画

1 併設校である成安造形大学との連携による特色ある教育活動の展開

- (1) 大学との連携の推進
 - (a) 併設校である成安造形大学の教職員や学生と連携して、併設校である成安造形大学での園外保育を開催する。
 - (b) 大学からの指導を得て、本園教育職員の造形芸術分野に関するスキルアップを目指す。

2 地域の子育てサポートセンターとしての機能強化

- (1) 保護者を対象とした子育てサポートの取り組み
 - (a) 保護者対象活動、幼児教育の相談・子育ての相談
 - ①今年度も引き続き、キンダーカウンセラーなど専門知識のある講師を交え、保護者に対し幼児教育に関する知識や情報を広めるための講演会や相談に応じる機会を設ける。
 - ②子育て中の保護者を支援することを目的として、同世代の保護者との子育てに関する情報交換の場として陶芸教室などを開催し、保護者の余暇活動を充実することを支援する事業を実施する。

(b) 地域連携の子育ての取り組み

- ①地域警察との連携による登園・降園の支援、防犯連絡の強化、保護者及び園児対象の交通安全教室を実施する。
- ②向日市消防署との連携による防災訓練を実施する。
- ③地域の中学生・高校生による社会実習体験を受け入れる。

(c) 預かり保育

早朝預かり保育「午前7時30分から保育始業時間迄」しており、また保育時間終了後の預かり保育を午後6時迄とし、30分単位の対応をしてきめ細かな運用を行う。また、開催曜日についても、保護者の視線に立ってニーズを考慮し長期休業日にも開催するなど更なる充実を図る。

3 入園者の確保に関する取り組み

(1) 広報戦略

- ①引き続き本園の保育内容や諸行事について、ホームページでリアルタイムの情報発信を行う。
- ②2020年度入園希望者に対する入園説明会を複数回実施する。
- ③2019年4月から9月にかけて、案内広告（リビング新聞、回覧板、地域関連情報誌など）を実施し、出生率や人口動向などのデータを確認し、効果的な地域を選択して入園案内チラシの新聞への折込みを行う。

(2) 募集戦略

- ①2019年4月から2020年3月にかけて、未入園児に対する活動である「園庭開放」「プレルーム開放」を年間30回程度実施する。
- ②未入園児に対する活動である「せいあん♥プレ保育」をリニューアルし開催時間や保育内容の充実を図る。
- ③他園との差別化を明確に図るために検討委員会(企画検討委員会)を立ち上げる。

4 教育内容の充実

(1) 幼稚園教育要領改訂に伴う教育課程の作成

各学年における教育課程の見直しが急務であり、更なる保育内容の質の向上を目指す。

(2) 幼少接続

幼児教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることから、幼児期の教育効果を高め教育の円滑な接続を図るために小学校との接続教育に力を入れて取り組んでおり、引き続いて向日市立第2向陽小学校、第4向陽小学校、第6向陽小学校などの小学校との間で実施する。

(3) 園児の安全対策の強化

児童が安心して保育を受け、学び、教職員が安心して教育活動を行う場所であるよう本園独自の危機管理マニュアルの改善を行うとともに、適切で確実な危機管理体制を維持し充実させる。また、研修などにより教職員が共通理解を図り、防犯・避難訓練などを実施してマニュアルを見直し、より実効性の高いものになるよう改善を図る。

(4) 食育教育など

近隣の農地の一部を借り受け「野菜の栽培」「料理」「食」など食育に関する多様な体験を、あそび、楽しみながらさせ、充実した食育教育を実施する。食物アレルギーへの対応については、対応マニュアルの遵守に努める。

(5) 研修

教員の資質、スキルアップを目的として、教育職員に対する研修を実施する。主に乙訓私立幼稚園協会主催の研修会、京都府私立幼稚園連盟主催新規採用教員研修会、京都府私立幼稚園連盟主催の夏期研修会・一般研修、園内研修、キンダーカウンセラーによる指導を実施する。また、教員免許の更新及び一種免許取得に係る講習についても積極的に受講するよう促す。

5 学園創立 100 周年記念事業・成安幼稚園開園 90 周年記念事業

- ①学園創立 100 周年記念事業年度である西暦 2020 年度は、本園の開園 90 周年にも当たるため、本園では学園創立 100 周年記念事業とあわせて実施する幼稚園開園 90 周年記念事業についても、具体化する。
- ②2019 年度に園内に準備組織を立ち上げ、ギャラリー空間を設置するなど自由なあそび空間を演出するなど感性を養う保育を目指す。
- ③学園創立 100 周年記念事業・幼稚園開園 90 周年記念事業として実施する遊戯棟の耐震改築（建替え）について、平成 32 年度実施に向けた基本計画の策定と補助金申請の準備を行う。

【平成 31 年 3 月 30 日 第 161 回理事会決議】